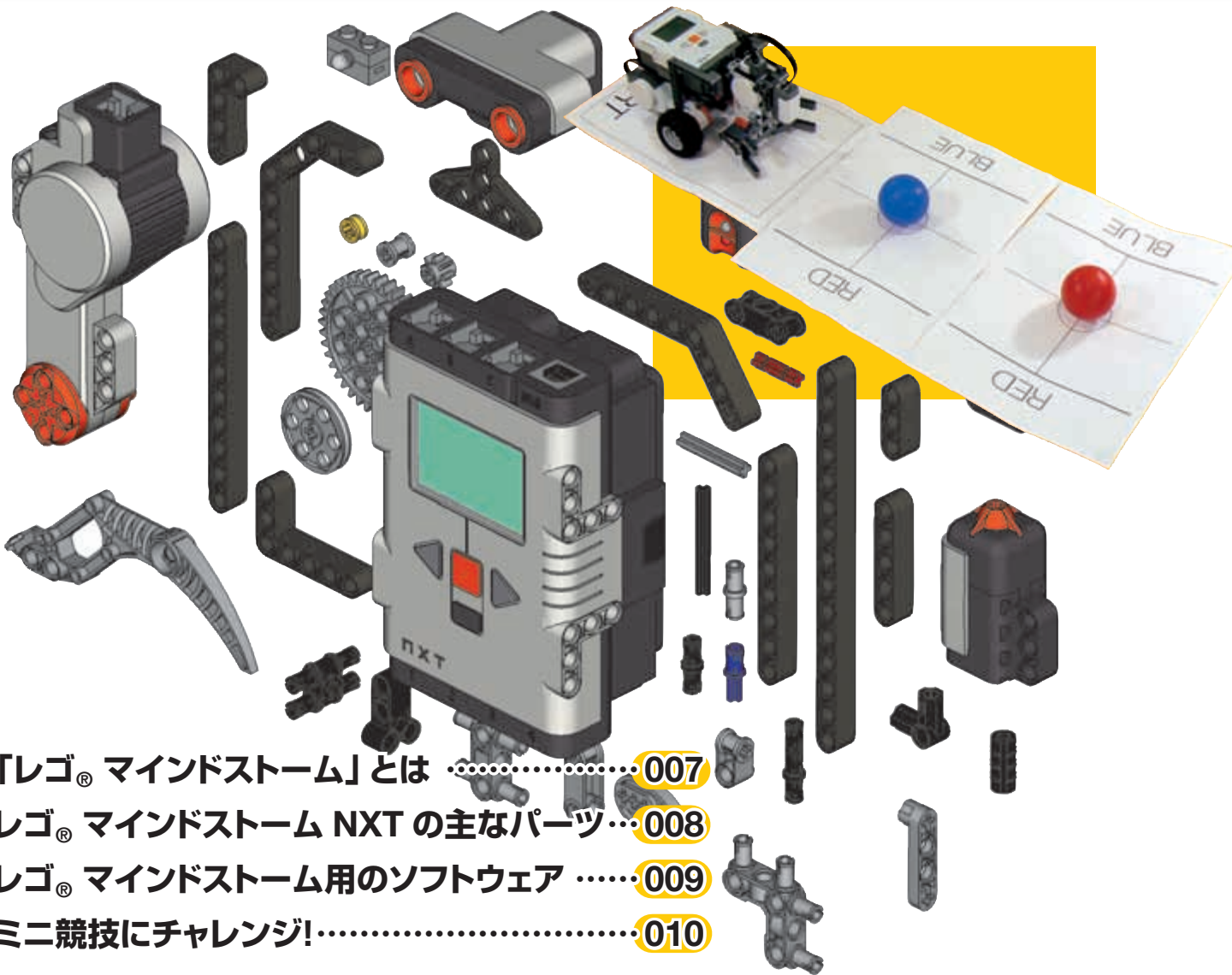


レゴ® マインドストーム NXT で ミニ競技に挑戦!

～カラーセンサーを使ったロボットのプログラミング～



「レゴ® マインドストーム」とは007
レゴ® マインドストーム NXT の主なパーツ...008
レゴ® マインドストーム用のソフトウェア009
ミニ競技にチャレンジ!.....010

1998年の発売以来、圧倒的な支持を集めているロボット組立てキットが、レゴ社の「レゴ® マインドストーム (LEGO® MINDSTORMS®)」です。レゴ® マインドストームは「ホビー」としての側面と、「教育」としての側面の2種類が存在しますが、中でも教育方面での発展はめざましいようです。現在は世界の5万校以上の教育機関で活用され、「FLL (FIRST

LEGO League)」や「WRO (World Robot Olympiad)」などの国際的なロボットコンテストでも採用されるまでに至っています。今回の特集ではそんなレゴ® マインドストームを取り上げ、基礎知識やロボット作りの方法を「おさらい」してみたいと思います。さらに、「カラーセンサー」の活用方法など最新の話題についても紹介していきます。

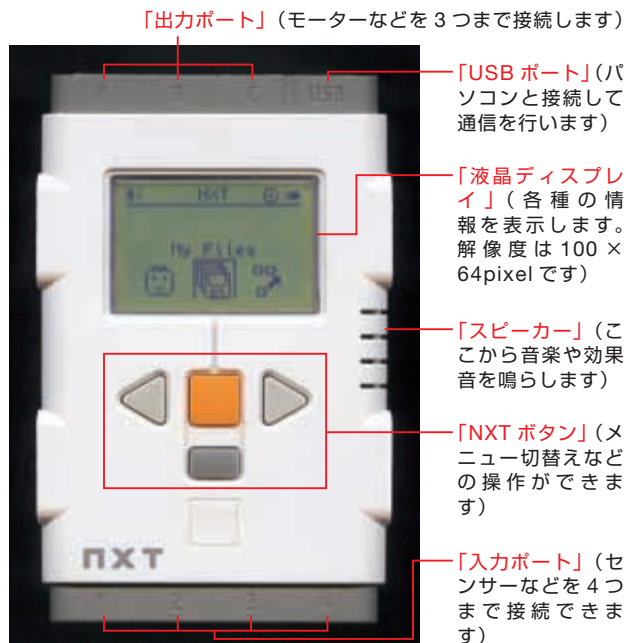
まつばら たくや
松原 拓也 / (有) ニコ

「レゴ® マインドストーム」とは

レゴ® マインドストームとは、レゴ社が MIT (米国マサチューセッツ工科大学) と共同で開発したレゴ社のロボットキットのシリーズ名です。レゴ® マインドストームが初めて登場したのは 1998 年、「コンピュータとレゴブロックの融合」という革新的なコンセプトは驚きを持って迎えます。「RCX (マイコンを搭載したブロック)」は全世界で 100 万台以上を販売しました (RCX は 2009 年に販売を終了しています)。

続いて、2006 年に登場したのが「レゴ® マインドストーム NXT (エヌエックスティ)」です。頭脳となる「インテリジェントブロック NXT」には 32bit マイコン (AT91SAM7S256) や Bluetooth モジュールを搭載するなど、大幅な性能アップがはかられています。そして、製品の回路図やファームウェアを一般公開するという画期的な手法を採用しています。2009 年の末には一般用のリニューアル版として「8547 レゴ® マインドストーム NXT2.0 (英語版)」が発売されています。

インテリジェントブロック NXT #9841



2種類のレゴ® マインドストーム

レゴ® マインドストームには「教育用」と、「一般用 (リテール版)」の 2 種類があり、それぞれの製品でパーツの構成が大きく違います。現在、一般用は英語版のみですが Amazon.com など入手できます。一方、教育用は日本語対応済みで、正規代理店やロボット関連ショップの「テクノロジア」などから入手できます (ただし、教育機関向けの販売となっています)。

教育用



「9797 教育用レゴ® マインドストーム NXT 基本セット」
総パーツ数 431。実売価格 4 万円弱。ソフトウェア類は別売りです。

一般用 (リテール版)



「8547 レゴ® マインドストーム NXT2.0 (英語版)」
総パーツ数 619。実売価格 3 万 4000 円。英語版の NXT ソフトウェア 2.0 が付属します。充電式バッテリーは別売りです。
※この商品は流通限定です。
取扱い店のお問い合わせ先：0120-83-0505